



2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた  
文化を通じた機運醸成策に関する関係府省庁等連絡・連携会議  
(第9回)

東京2020大会に向けた  
文化関連事業の取組

令和2年1月30日

外務省

## 東京2020大会に向けた文化事業の取組

### 1. これまでに実施した海外日本文化紹介事業

- ・ 在外公館文化事業
- ・ ジャポニスム 2018（フランス）
- ・ 響きあうアジア 2019（東南アジア）
- ・ Japan 2019（米国）

### 2. Sport for Tomorrow プログラム

### 3. 今後実施する海外日本文化紹介事業

- ・ ギリシャ・アテネでの採火式にあわせた事業

### 4. beyond2020プログラム

# 1. これまでに実施した事業

## 在外公館文化事業（全世界で223公館）

- ◆ 在外公館が、管轄地域における人脈の構築や親日層の維持形成を図ることを目的として、日本文化の紹介事業を主催（共催）するもの。令和元年度は約830件を実施予定。

### 実施事業例



「ユネスコ親善大使茶道レクデモ」  
(フランス, 2019年4月)



「バルト三国和楽公演」  
(リトアニア, 2019年6月)



「ジャパン・デー2019」  
(スロベニア, 2019年6月)

- ユネスコ執行委員会の機会を捉え、ユネスコ本部において、我が国ユネスコ親善大使である千玄室大宗匠による茶道レクデモを実施。
- ユネスコ事務局長、ユネスコ執行委員会議長（韓国代表部大使）、世界の記憶ワーキンググループ共同議長（アルバニア代表部大使）等、約250名が参加。
- ユネスコ執行委員会の出席者（本国からの政府要人出張者を含む）からも多くの参加と高い評価が得られ、ユネスコにおける日本のプレゼンス向上に寄与。
- リトアニアオリンピック協会が主催する「オリンピックデー」（於：クライペダ市）において、邦楽公演及び2020年東京オリンピック・パラリンピックの広報を実施。
- クライペダ市長、リトアニアオリンピック委員会会長等、約1,000名が参加。
- 現地主要テレビで大きく取り上げられた他、多くの参加者が事業の様子を個人のSNSでライブ配信する等、高い波及効果が得られた。
- スロベニア文化省の協力の下、50件のブースを設置し、15件のプログラム（浴衣試着、蕎麦打ちレクデモ、アニメ・マンガ紹介、各種日本文化ワークショップ等）を実施。
- スロベニア副首相兼教育・科学・スポーツ大臣等、約2,500名が参加。
- 参加者は、2012年の第一回（1,500人）以来、毎年平均1割ずつ増加。本事業が現地で定着し、対日関心層の裾野拡大に寄与。

- ◆ 令和2年度は、東京2020大会に向けてモメンタムの高まる機会を捉え、特に日本国内の**ホストタウンと連携した事業**（ホストタウンの魅力発信及びインバウンド観光の促進）や、東京オリパラへの注目が集まる各国での結団式までの様々な**スポーツイベント等の機会を活用した日本文化紹介事業**を実施予定。

令和2年度予算額【2.34億円】（令和元年度予算額：2.4億円）

# 1. これまでに実施した事業

## ジャポニスム 2018

- ◆ 2018年7月から2019年2月まで、**フランスのパリ**を中心に展覧会、舞台公演、日本映画上映等様々な文化事業を大規模に実施。**柔道**、**日本各地の祭り**や**和食・日本酒紹介**なども含め**300以上の企画**を通じて日本文化の魅力を発信。**地方の魅力**や**日本製品の発信**も実施。
- ◆ 約**353万人**の来場を記録、日仏での報道露出件数**1万件**以上。

## 響きあうアジア 2019

- ◆ 国際交流基金アジアセンターが実施してきた「文化のWA」プロジェクトによる、日本と東南アジアの5年間の文化交流事業を総括して紹介。
- ◆ 国内では東京を中心に、海外では東南アジアの3都市（ジャカルタ、ハノイ、バンコク）を中心に、**計24件の事業**を実施し、**約2万人を動員**。報道件数500件。

## Japan 2019

- ◆ 「ジャポニスム2018」に引き続き、日米関係をより重層的に強化していくことを目的として、米国において日本の文化・芸術を紹介する「Japan 2019」を開催。
- ◆ 中核となる「公式企画」8件の実施で計**43.5万人**の来場者を集め、また、広く官民が実施する事業を「参加企画」として認定（2019年12月17日時点で104件）。



「若冲-（動植綵絵）を中心に」展  
（皇太子殿下（当時）御視察）



「縄文-日本における美の誕生」展（安倍総理視察）



ASIAN ELEVEN



「日本美術に見る動物の姿」展  
Photo: National Gallery of Art, Washington

## 2. Sport for Tomorrow プログラム

○コアメッセージ：スポーツが未来をつくる：2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会とそれに向けた具体的行動を通じて、世界のより良い未来のために、未来を担う若者をはじめ、あらゆる世代の人々に、スポーツの価値とオリンピック・パラリンピック・ムーブメントを広げていく。

2014～2020年の7年間で、開発途上国を始めとする100か国以上の国・地域において、1,000万人以上を対象に、以下のプログラムを実施する。

### ① スポーツを通じた国際協力及び交流

#### 【外務省】

- スポーツ関連施設の整備、器材供与（文化無償資金協力）
- スポーツ指導者・選手の派遣・招へい（JICA海外協力隊派遣、スポーツ外交推進事業）
- スポーツ分野での技術協力（JICA技術協力）
- スポーツ分野での日本文化紹介・人材育成支援（国際交流基金事業）
- スポーツ分野での日本文化紹介（在外公館文化事業）等

#### 【スポーツ庁】

- 学校体育カリキュラム策定支援、スポーツイベントの開催支援をするため、専門家を派遣
- パラリンピック参加国・地域数の拡大に向けた支援等

### ② 国際スポーツ人材育成拠点の構築 【スポーツ庁】

- スポーツ教育を行う大学院修士課程や短期プログラムへの留学生の受入

### ③ 国際的なアンチ・ドーピング推進体制の強化支援 【スポーツ庁】

- アンチ・ドーピングが遅れている国への教育・研修パッケージの開発・導入支援等

### Sport for Tomorrowコンソーシアム (2014年8月設立)

※Sport for Tomorrowプログラムを推進していくための官民連携ネットワーク

#### ●運営委員会：

- 外務省
- スポーツ庁
- 日本スポーツ振興センター（JSC）
- 国際協力機構（JICA）
- 国際交流基金
- 東京2020組織委員会
- 日本オリンピック委員会（JOC）
- 日本パラリンピック委員会（JPC）
- 日本アンチ・ドーピング機構（JADA）
- 日本スポーツ協会
- 筑波大学
- ラグビーワールドカップ2019組織委員会
- ワールドマスターズゲームズ2021関西組織委員会
- 日本貿易振興機構（JETRO）

#### ●メンバー：（随時募集中）

- 地方自治体
- スポーツ関連団体
- 大学
- 民間企業
- NGO/NPO 等

#### ●事務局：

- 日本スポーツ振興センター（JSC）

上記に加え、スポーツ振興の前提となる途上国の青少年の育成を草の根レベルで支援。（教育施設整備案件）→外務省

## ギリシャ・アテネでの聖火引継式にあわせた事業

### 「北大路魯山人」 「Relay to Tokyo」 2つの日本美術展をアテネで同時開催

東京2020オリンピック聖火引継式のタイミングにあわせて、国際交流基金がギリシャ・アテネにおいて「北大路魯山人」展および日本現代美術展「Relay to Tokyo-継承と集積」を同時開催。伝統工芸に新しい息吹を吹き込んだ魯山人の名品から、新国立競技場を設計した隈研吾の織部風茶室まで、多様な作品を通して日本文化の魅力を東京オリンピック・パラリンピックに先駆け、世界へ向けて発信。

会期：2020年3月18日(水)～5月3日(日)  
会場：国立ビザンチン・クリスチャン美術館  
主催：国際交流基金、国立ビザンチン・クリスチャン美術館  
出品作家：北大路魯山人

荒木 悠、今津 景、隈 研吾、竹川 宣彰、パラモデル・ハヤシヤスヒコ、  
本城 直季、山本 基

「北大路魯山人」展

協力：世田谷美術館(公益財団法人せたがや文化財団)

【参考】令和2年度の国際交流基金運営費交付金：【126.72億円】 (令和元年度予算額：133.2億円)

(文化芸術交流事業費はこの内数)



北大路魯山人〈雲錦大鉢〉  
世田谷美術館(塩田コレクション)  
写真：上野則宏



隈研吾〈織部の茶室〉  
セラミックパークMINOでの展示風景



本城直季〈Minato City in Tokyo〉

## 4. beyond2020プログラム



◆ 令和2年1月現在、外務省は**2,426件**、国際交流基金は**1,597件**を  
認証済み。引き続き、海外での文化プログラムを推進。